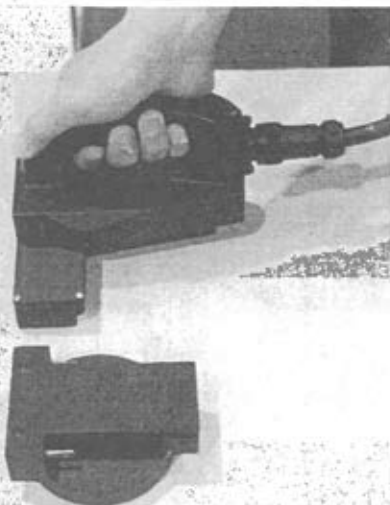


コイル着脱式IH装置

幅広い用途 海外DIY向け狙う

ブラウニー

【さいたま】ブラウニー(埼玉県北本市、鈴木邦彦社長)は、コイル着脱式携帯用電磁誘導加熱(IH)接着・剝離装置を開発、発売した。建設現場での壁や床材の貼り付け作業など幅広い用途に使える。加熱するコイルは目的に合わせて丸形と長方形の2種類を交換可能。価格は37万円(消費税抜き)。海外でも販売する計画で、米国や欧州、アジアで特許取得の準備を進める。



コイル着脱式携帯用IH接着・剝離装置。下は装置から外した丸形コイル

IH接着は接着した材料の間に接着剤を付けたアルミテープを設置。電磁誘導でアルミが加熱し接着剤が溶けて材料を接着する仕組み。剝離にも使えるほか、金属材に接着する場合は接着テープだけでアルミテープも不要になる。

東京電機大学の指導を受けて開発を進め、

これまでアイロン型のIH接着・剝離装置などを開発した。新たに開発したコイル着脱式は、直径9センチの円形型と横18センチ×縦4センチの長方形型の2種類のコイルを用意。接着形状などの場所や面積に応じて使い分けができる。個別形状のオーダー品のコイルにも対応する。

100センチと200センチの両方の電圧に対応するため、家庭用や業務用の電源が使える。建築分野だけでなく、土木、家電、日用品、自動車、医療など幅広い分野で活用できる。すでに特許庁の補助金を得て特許協力条約(PCT)に基づき国際出願をした。「米国のDIY(日曜大工)市場などでも採用が期待できることから、海外展開を進めていきたい」(鈴木社長)と意欲を示す。